

石川・美麻奈比古神社前遺跡

- 所在地 石川県鳳至郡穴水町字川島
- 調査期間 第四次調査 一九九五年(平7)五月～八月
- 発掘機関 穴水町教育委員会
- 調査担当者 四柳嘉章・辻本馨・岡本伊佐夫
- 遺跡の種類 集落跡
- 遺跡の年代 弥生時代～近世
- 遺跡及び木簡出土遺構の概要
 本遺跡は能登を代表する中世村落、西川島遺跡群(崇徳院御影堂
 領能登国大屋莊穴水保)の一つで、穴水湾から小又川を約1kmほどさ
 かのぼった、穴水低地の奥
 まつた地域に位置し、式内
 社・美麻奈比古神社参道前
 に広く遺物の散布が見られ
 る。遺跡は、のと鉄道を挟
 んで、北側の御供田地区と
 南側に分断され、南側では
 西川島地区土地区画事業に
 伴う第一～三次調査において、
 付札木簡が出土した。

て、弥生時代から古墳時代の住居跡や7世紀の掘立柱建物(倉庫)、
 中世前期の大型掘立柱建物・井戸などが検出された。

木簡は、御供田地区で、地方道七尾輪島線拡張工事に伴う第四次
 調査時に出土した。層位は、小石・砂利混じり層を境にして一五世
 紀後半(一部近世陶器・寛永通宝を含む)の上層と、弥生時代から古
 代にわたる下層に区分される。木簡は上層で五点出土しているが、
 文字が判読できるのは二点である。

8 木簡の釈文・内容



222×32×9 051



220×32×9 051



180×32×8 051

(1)は付札木簡。墨痕薄く中央に「六」が確認できるほかは判読不
 能。下端部がカットされている。

(2)は付札木簡。表裏に墨痕が認められるが、ともに薄く片面やや
 下部に「柳」が確認できるほかは判読不能。下端部がカットされて
 いる。

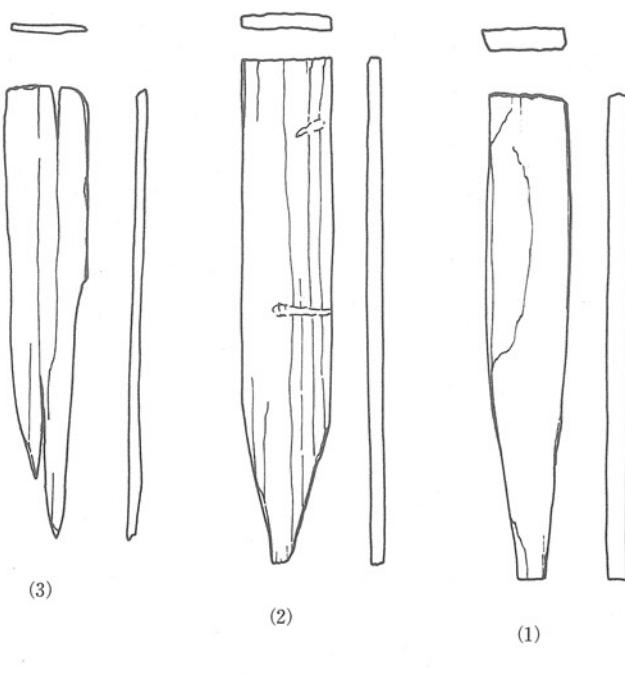
(3)は付札木簡。墨痕薄く下部に「弥」が確認できるほかは判読不
 能。下端は尖る。

(1)～(3)は、すべてスギの板目材である。

9

穴水町教育委員会『美麻奈比古神社前遺跡—能登・西川島遺跡群における古代集落の調査』(一九九七年)

(四) 柳嘉章
〈漆器文化財科学研究所〉



富山・麻生谷遺跡

7	6	5	4	3	2	1
遺跡及び木簡出土遺構の概要	遺跡の年代	遺跡の種類	調査担当者	発掘機関	調査期間	所在地
遺跡及び木簡出土遺構の概要	古墳時代～中世	集落跡・官衙跡	武部喜充・根津明義・山口辰一	高岡市教育委員会	一九九五年(平7)七月～一月	富山県高岡市麻生谷

遺跡及び木簡出土遺構の概要

麻生谷遺跡は、高岡市西部、西山丘陵の麓に位置する。本遺跡の東には、小矢部川が南西から北東方向へ蛇行しながら流れている。

本遺跡周辺は、『延喜式』

平安時代を主体とする遺跡
が広がっている。本遺跡に
北接する麻生谷新生園遺跡
では、一九九七年に個人住
宅建設に伴う調査で、石敷

